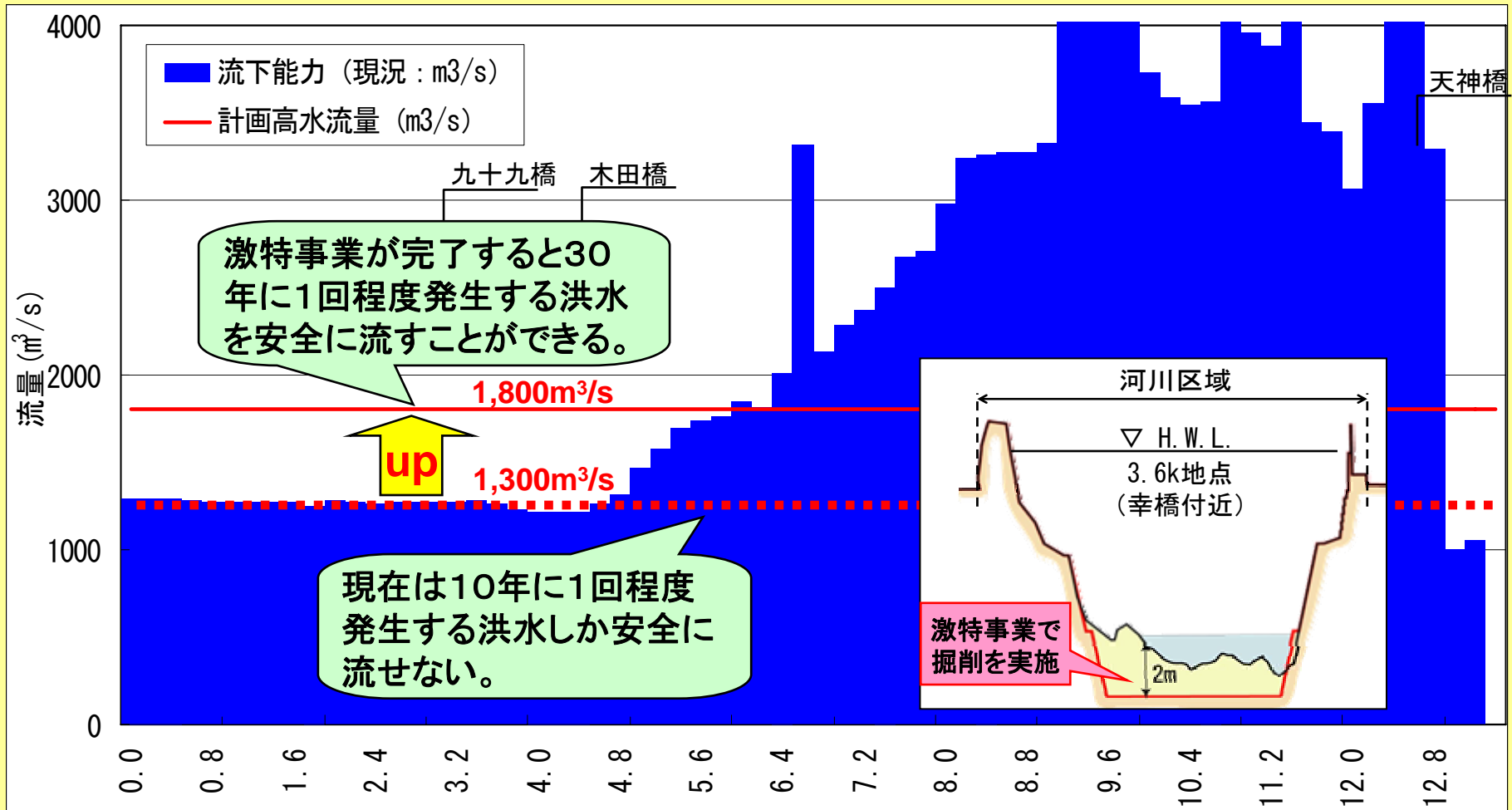


# 足羽川ダム計画の 必要性について

平成18年5月10日

国土交通省 近畿地方整備局

# 足羽川の現況流下能力



日野川合流点～天神橋付近の流下能力図

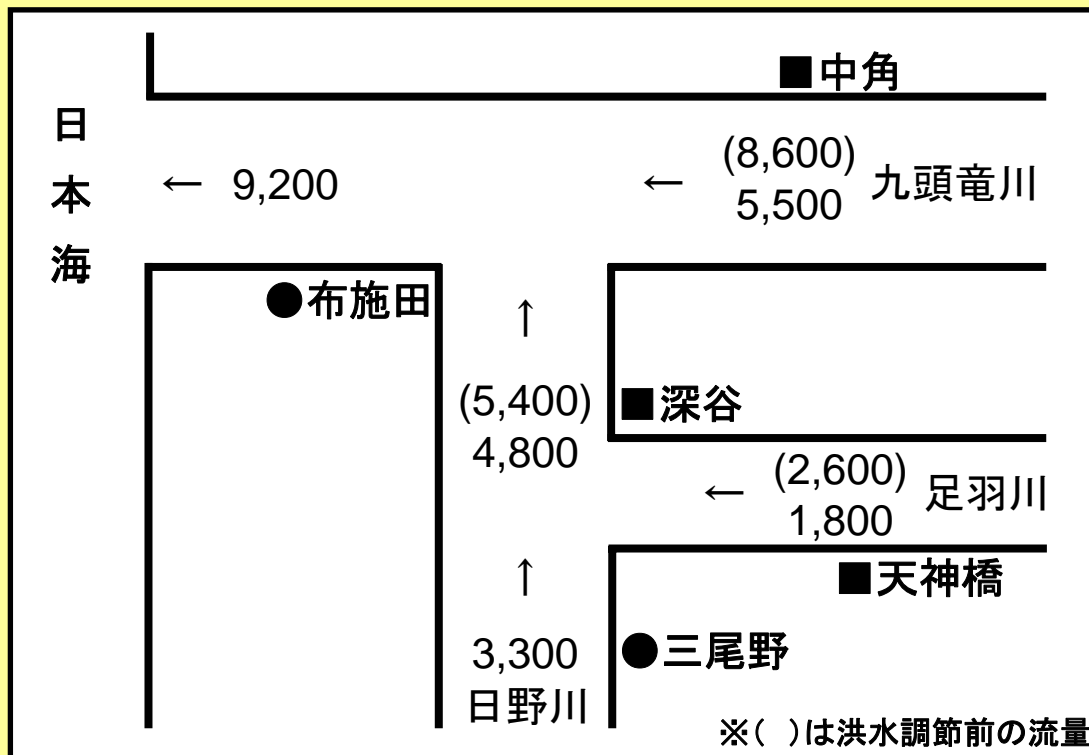
# 九頭竜川水系河川整備基本方針

※基本方針は平成18年2月に策定

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ ) ※	洪水調節施設による調節流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	河道への配分流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )
九頭竜川	中角	8,600	3,100	5,500
日野川	深谷	5,400	600	4,800
足羽川	天神橋	2,600	800	1,800

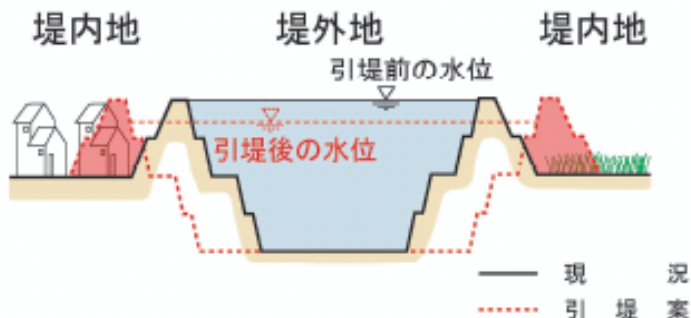
※150年に1度発生する洪水に相当



九頭竜川計画高水流量図 (単位: $\text{m}^3/\text{s}$ )

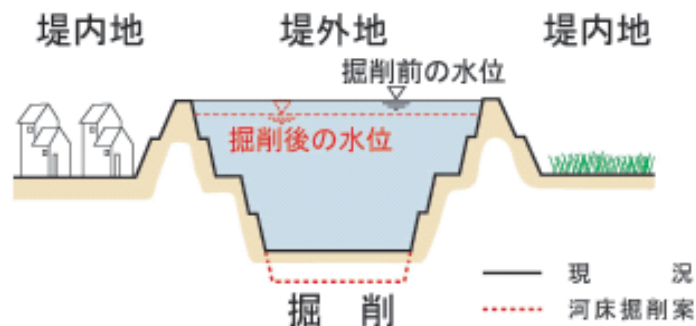
# 治水対策の検討

## 引堤(案)



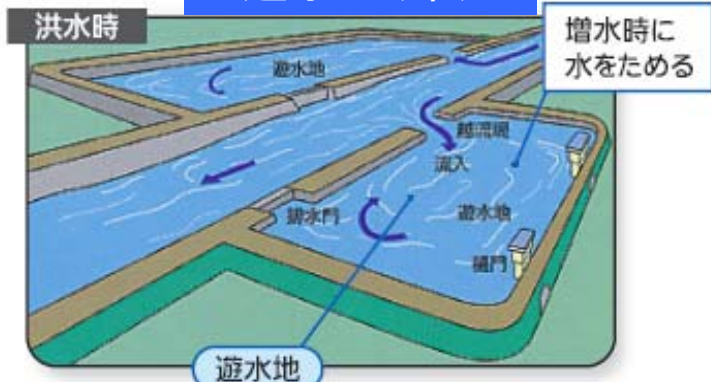
川沿いに市街地が近接しており、多くの家屋移転が伴う

## 河床掘削(案)



激特事業からさらに深く掘り下げる必要があり、安定な川底が保てない。また、掘削した残土が多くその処理や塩水遡上による影響がある

## 遊水地(案)



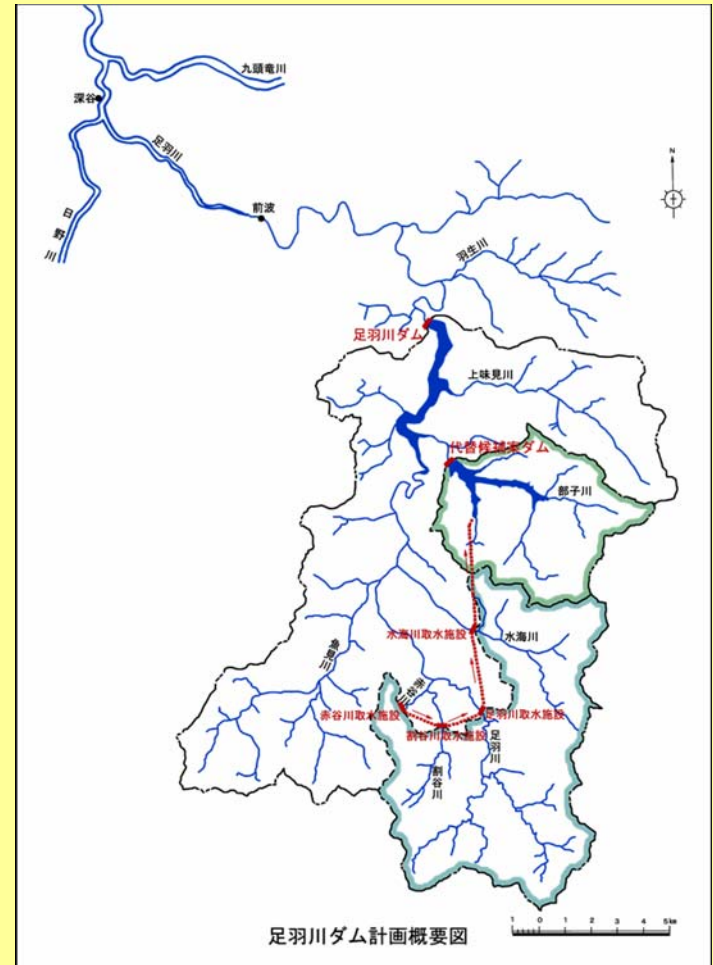
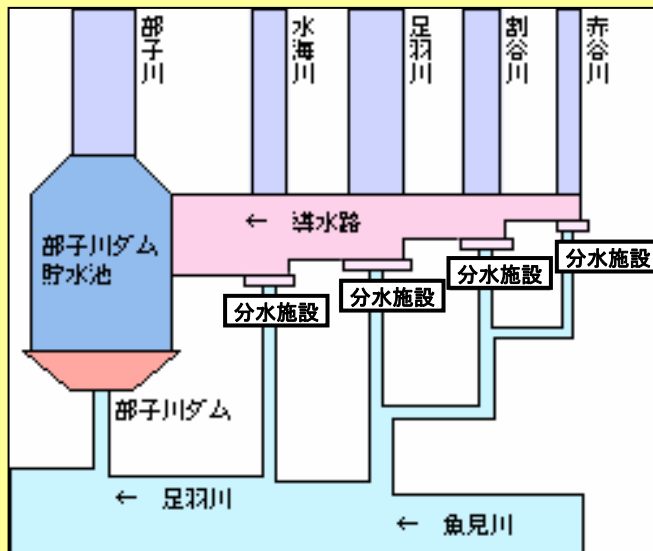
まとまった平地が必要。地権者をはじめ地域住民の合意形成に長期の時間が必要

ダム案と比較すると、これら3案はコスト・事業期間が多大なうえ、社会的影響が大きいため**実施は困難**

# 治水対策の検討

- 天神橋地点の基本高水のピーク流量 $2,600\text{m}^3/\text{s}$ に対し、**足羽川ダムで $800\text{m}^3/\text{s}$ 調節**し、残り $1,800\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流せる河道を整備
- 足羽川ダムは、足羽川上流の部子川(池田町)で整備を計画

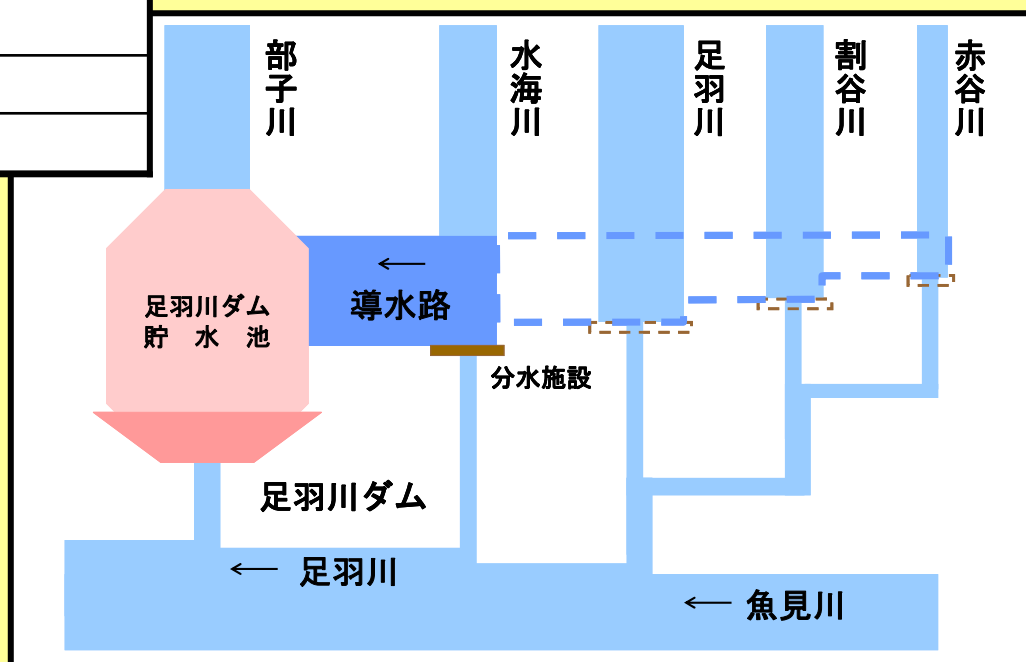
集水面積	約 $105\text{km}^2$
総貯水容量	約 $28,700,000\text{m}^3$
ダム高	約 $96\text{m}$
導水トンネル本数	4本
導水トンネル 延べ延長	約 $11\text{km}$
導水トンネル トンネル径	約 $5\text{m}\sim 15\text{m}$
分水施設	4カ所



# 当初の段階整備の考え方

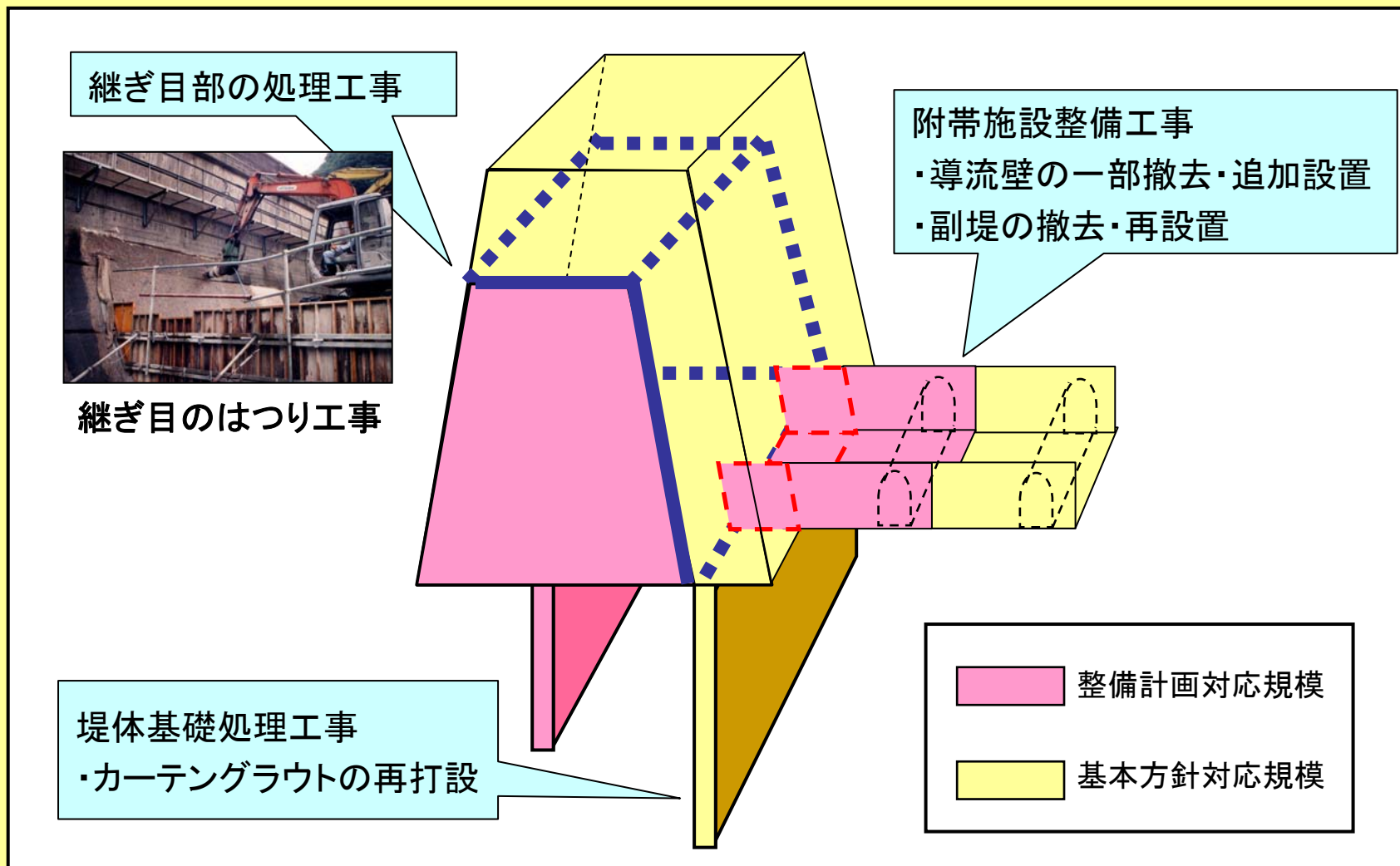
約80年に1回程度発生する戦後最大の洪水(福井豪雨:天神橋地点で2,400m<sup>3</sup>/s)への対応を目標に、足羽川ダム本体と水海川から部子川までの導水路を段階的に整備

集水面積	約55km <sup>2</sup>
総貯水容量	約28,700,000m <sup>3</sup>
ダム高	約96m
導水トンネル本数	1本
導水トンネル 延べ延長	約4.5km
導水トンネル トンネル径	約15m
分水施設	1カ所



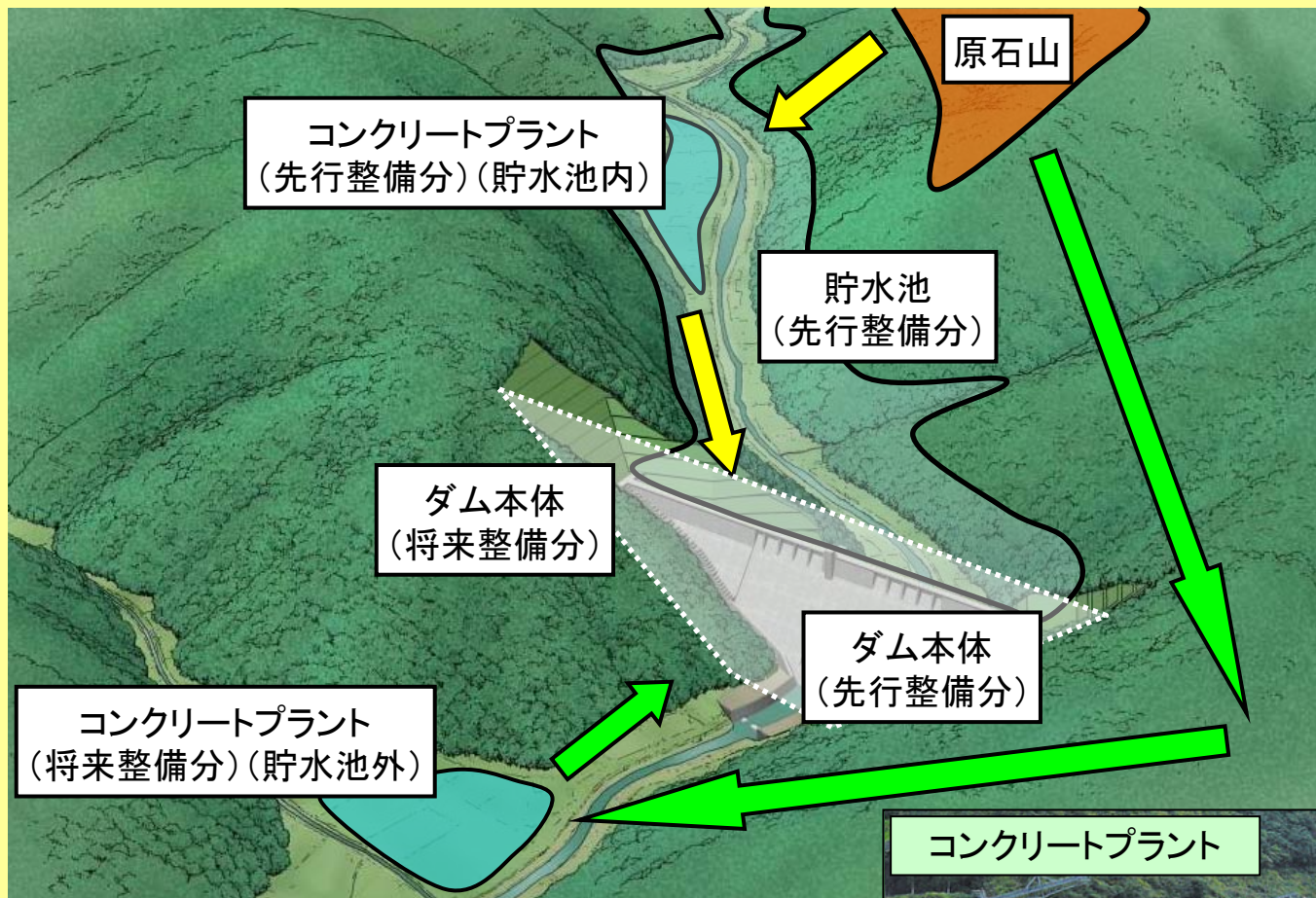
# 足羽川ダムの段階整備による事業費増大

## ・工事の手戻り



# 足羽川ダムの段階整備による事業費増大

## ・コンクリートプラント等の施設の再設置



将来整備の際、先行整備のプラント箇所は貯水池内であるため設置は不可。



新たに将来整備用プラントの施設とその用地買収が必要となる。また資材の運搬距離も伸び事業費が増大する。

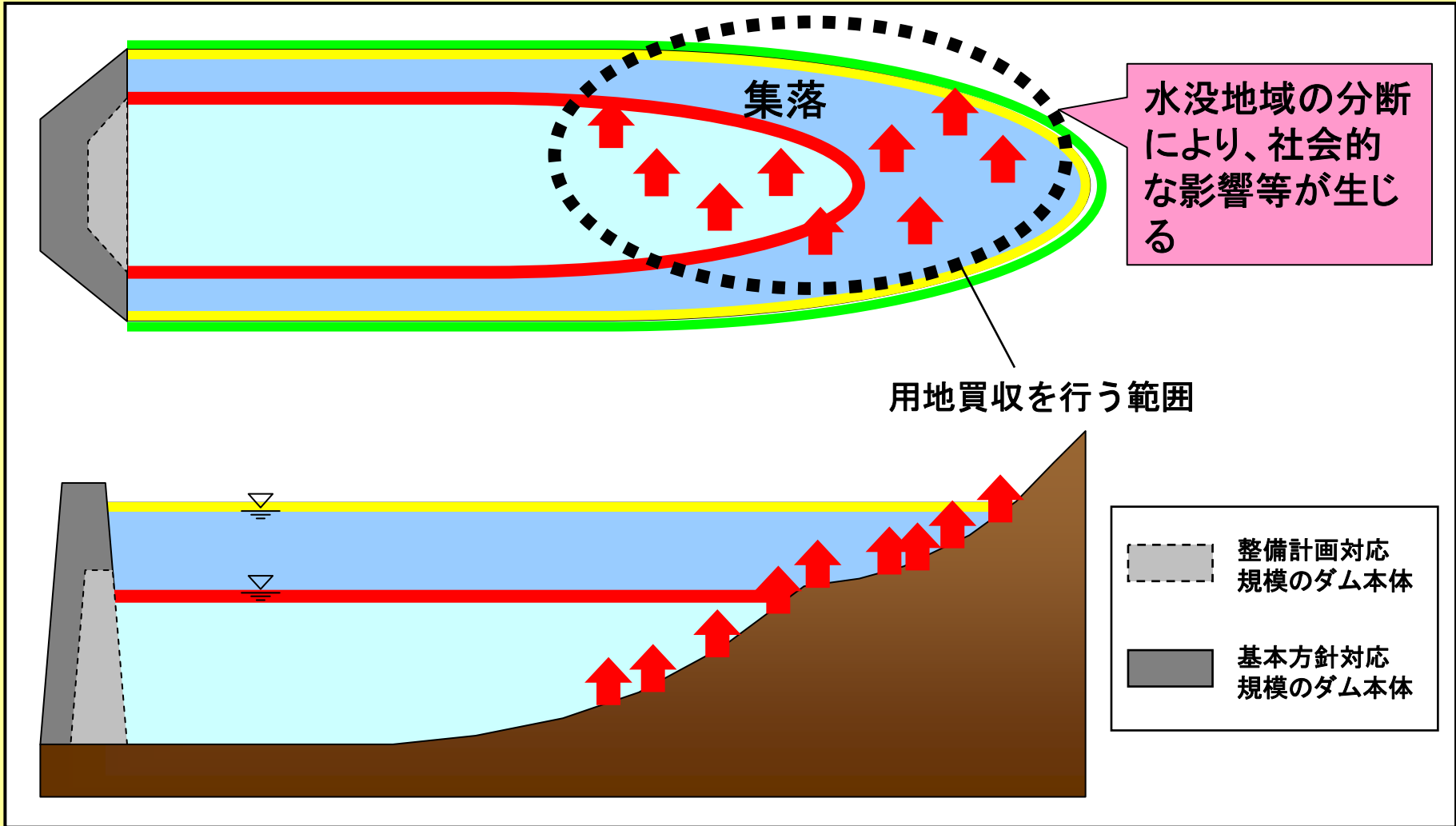
← 先行整備の資材運搬経路

← 将来整備の資材運搬経路





# 足羽川ダムの段階整備による社会的影響



# 当初の段階整備の考え方

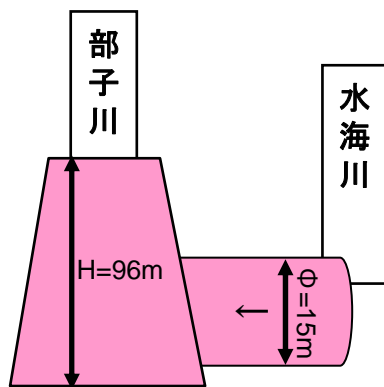
当面の目標の施設規模は以下の点より将来形で建設する。

- 手戻り工事による建設費の増大を抑える。(200~300億円)
- 社会環境、自然環境に対する影響を抑える。

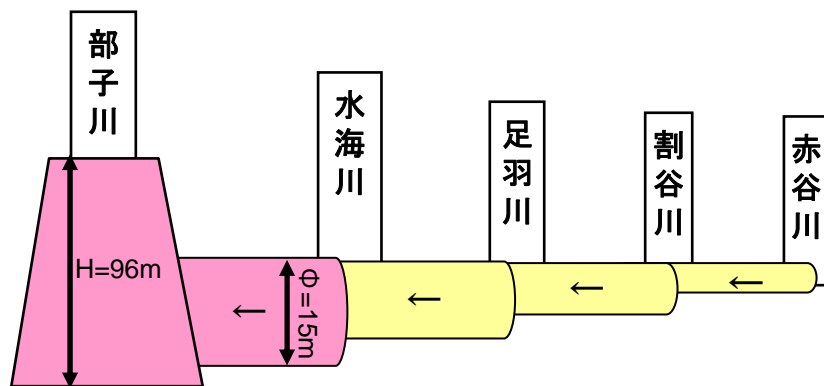
目標

施設整備イメージ

当面の目標  
(福井豪雨対応)



将来の目標  
(一五〇年に一回の洪水)



工事内容	河川整備計画期間	次期河川整備計画期間以降
ダム本体	←→	/
部子川~水海川		
水海川~足羽川	/	←→
足羽川~割谷川		
割谷川~赤谷川		

# 段階整備の再検討について

# 当初の段階整備の再検討

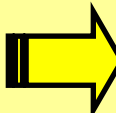
- ・危機管理
- ・洪水調節機能の確保 等

の観点から再度検討を実施

## 前提条件

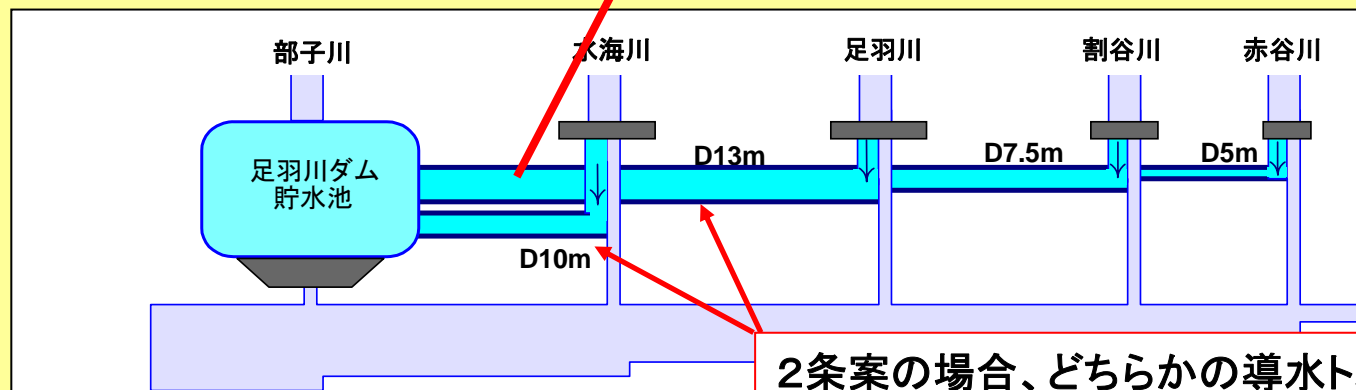
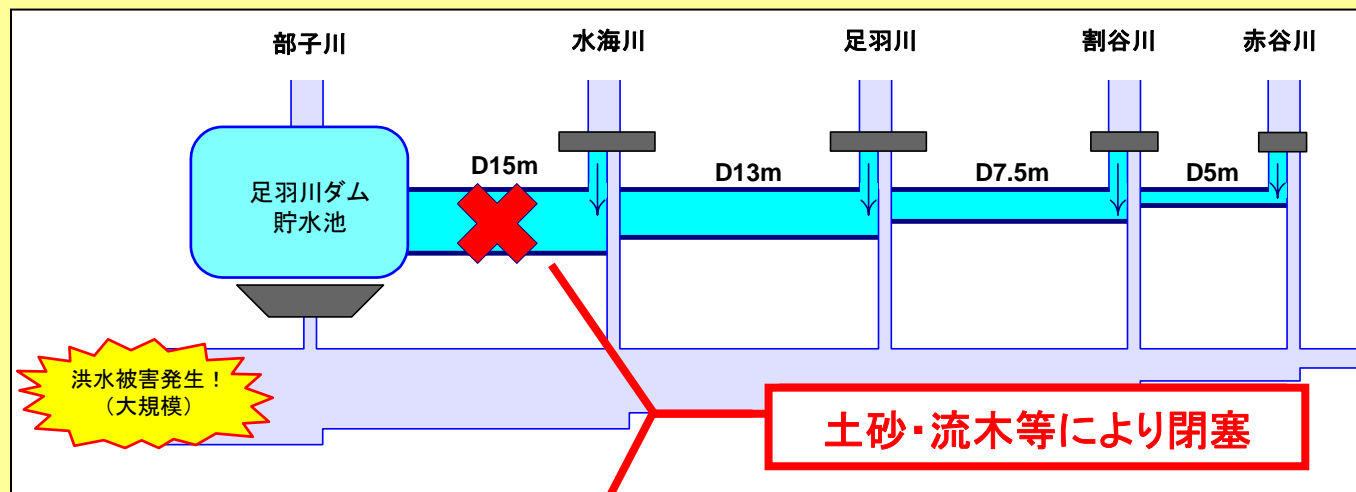
- ・手戻り工事による建設費の増大を抑える。
- ・社会環境、自然環境に対する影響を抑える。

ダム本体:コンクリート製造施設等の重複投資の額の大きさと水没地域の分断による社会的影響が無視できない。

 ダム本体は最終形(H=96m,基本方針対応)で整備

# 導水路整備の再検討

## 危機管理(リスクの分散)・洪水調節機能の確保

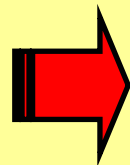


# 導水路整備のまとめ

	当初案	再検討案
整備イメージ		
全体事業費	1,120億円 (1,400億円)	960億円 (1,450億円)
内ダム分	800億円 (800億円)	800億円 (800億円)
内導水路分	320億円 (600億円)	160億円 (650億円)

※上段: 先行整備分  
下段: 先行整備+将来整備分

全体事業費はやや高くなるが、  
危機管理上リスクを分散できる



**2条案を採用**

※当面の事業費も抑制可能

# 足羽川ダム計画(案)

目的	洪水調節専用
位置	部子川 (福井県今立郡池田町小畑地先)
規模	
ダム高	96m (全体計画: 96m)
導水河川数	1川導水(水海川・径10m) (全体計画: 4川導水)
事業費	約960億円 (全体計画: 約1,450億円)
事業費負担	国7/10、県3/10 (河川法に基づく) ※法令による国負担のかさ上げ措置、また、後年度に交付税措置がある
事業期間	先行整備分: 20年、将来整備分: 約10年

